小松久男先生――業績――

1975 年

・「回顧と展望（中央アジア）」『史学雑誌』第 84 編第 5 号、237–241 頁、【その他】

1978 年

・「ブハラのマハッラに関するノート―O.A. スーハレワのフィールド・ワークから」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 16 号、178–215 頁、【論文】
・「ゼキ・ヴェリディ・トガン自伝（5）」『史朋』9 号、8–17 頁、（山内昌之と共訳注、原文：トルコ語）、【翻訳・訳注】

1979 年

・「ゼキ・ヴェリディ・トガン自伝（6）」『史朋』10 号、1–9 頁、（山内昌之と共訳注、原文：トルコ語）、【翻訳・訳注】

1980 年

・「アンカラ日記から」『窓』33 号、5–13 頁、【その他】
・「近代中央アジアの群像」『月刊シルクロード』6 巻 7 号、35–39 頁、【その他】

1981 年

・“Fitrat’ın “*Münazara*”sı üzerine Notlar”, *Doğu Dilleri*, Vol. 2, No. 4, pp. 157–168,（トルコ語）、【論文】
・「フィトラトの『問答』について―近代中央アジアの改革思想」『バルカン・小アジア研究』第 7 号、53–69 頁、【論文】
・『世界の教科書＝歴史 トルコ 1』ほるぷ出版、（担当：192–287 頁）、（共訳、原文：トルコ語）、【翻訳・訳注】

1982 年

・「ゼキ・ヴェリディ・トガン自伝（7）」『史朋』14 号、1–10 頁、（山内昌之と共訳注、原文：トルコ語）、【翻訳・訳注】
・日本イスラム協会ほか編『イスラム事典』平凡社、（後に『新イスラム事典』平凡社、2002）、【辞典・事典項目】
・「書評：David Kushner, *The Rise of Turkish Nationalism 1876–1908*, London, 1977」『バルカン・小アジア研究』第 8 号、31–36 頁、【書評】

1983 年

・「ブハラとカザン」護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』山川出版社、481–500 頁、【論文】
・「イスタンブルのウズベク人」『季刊東西交渉』6 号、38–39 頁、【その他】

1984 年

・「中央アジアにおけるムスリムの現状」『中東通報』293 号、26–32 頁、【その他】

・「書評：Jacob M.Landau, *Pan-Turkism in Turkey: A Study of Irredentism*, London, 1981」『バルカン・小アジア研究』第 10 号、41–47 頁、【書評】

1985 年

・「タシュケントのイシャーンについて」『イスラム世界』第 23・24 号、69–90 頁、【論文】
・「書評：Сергей М. Демидов: Суфизм в Туркмении (Эволюция и пережитки), «Ылым», Ашхабад, 1978, 176c (Sergei M.Demidov, *Sufizm v Turkmenii: Evolyutsiya i perezhitki*, Ashkhabad, 1978)」『バルカン・小アジア研究』第 11 号、55–61 頁、【書評】

1986 年

・「アンディジャン蜂起とイシャーン」『東洋史研究』第 44 巻第 4 号、1–31 頁、【論文】
・「ゼキ・ヴェリディ・トガン自伝（8）」『史朋』19 号、1–14 頁、（山内昌之と共訳注、原文：トルコ語）、【翻訳・訳注】

1988 年

・「書評：Mehmet Saray, *Rus İşgali Devrinde Osmanlı Devleti ile Türkistan Hanlıkları Arasındaki Siyasi Münasebetler (1775–1875)*, İstanbul, 1984」『バルカン・小アジア研究』第 14 号、107–113 頁、【書評】
・「エルズルムのキュンベト」『文明』54、1–4 頁、【その他】

1989 年

・「コーカンドとイスタンブル――オスマン文書の紹介」『バルカン・小アジア研究』第 15 号、35–52 頁、【論文】
・「あるジャディードの軌跡」『史朋』第 23 号、1–20 頁、【論文】
・“The Evolution of Group Identity among Bukharan Intellectuals in 1911–1928: An Overview”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 47, pp. 115–144、【論文】
・「トルキスタンにおけるイスラム――総督ドゥホフスキー大将のニコライ 2 世宛上奏文」『東海大学紀要文学部』50 輯、35–65 頁、（原文：ロシア語）、【翻訳・訳注】
・「回顧と展望（内陸アジア）」『史学雑誌』第 98 編第 5 号、275–281 頁、【その他】

1991 年

・『イスラム都市研究――歴史と展望』羽田正・三浦徹編、東京大学出版会、（担当：「中央アジア」265–310 頁）、【共著】
・アブデュルレシト・イブラヒム『ジャポンヤ――イスラム系ロシア人の見た明治日本』第三書館（小松香織と共訳、原文：オスマン語）、【翻訳・訳注】
・「書評：アブラル・カリムッリン著『タタール人 エトノスとエトノニム』」（書評：Абрар Каримуллин, Татары: этнос и этноним, Казань, Татарское книжное издательство, 1988=Abrar Karimullin, *Tatary: Etnos i etnonim, Kazan'*, 1988）」『東洋学報』第 72 巻第 3・4 号、122–129 頁、【書評】
・「カシュガルのアンディジャン区調査報告」清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』東京外国語大学、45–55 頁、【その他】

1992 年

・『アジアの歴史』藤家禮之助編、南雲堂、（担当:「オスマン帝国と現代トルコ」277–295 頁）、【共著】
・『内陸アジア（地域からの世界史 6）』間野英二ほか著、朝日新聞社、（担当：「II 一九世紀から二〇世紀まで　ロシア・ソ連と内陸アジア」179–201 頁」）、【共著】
・「中央アジアの都市と民族問題」『学術月報』第 45 巻第 4 号、53–58 頁、【論文】
・「中央アジア―再生への胎動と試練」『国際問題』386 号、42–53 頁、【論文】
・「中央アジア現代史への問い―『永久のキャラヴァン』抄訳と解説」『海外事情』第 40 巻第 6 号、2–16 頁（原文：ウズベク語）、【翻訳・訳注】
・M. A. アブドゥライモフ「ブハラのコシュベギ官房文庫研究序説」『西南アジア研究』No. 37、19–57 頁（原文：ロシア語）、【翻訳・訳注】
・「露東協約」『UP』（東京大学出版会）、241 号、28–32 頁、【その他】
・「韃靼の志士」『本』第 17 巻第 10 号、42–45 頁、【その他】

1993 年

・『イスラーム復興はなるか』（イスラームの世界史 3）坂本勉・鈴木董編、講談社現代新書、（担当：「ロシア支配下の中央アジア」162–204 頁）、【共著】
・*20. Yüzyıl Başlarında Orta Asyada Türkçülük ve Devrim Hareketleri*, Ankara: Turhan Kitabevi,（トルコ語）、【単著】
・「民族・言語・歴史：汎トルコ主義からの眺望」『民族に関する基礎研究―国家と民族』（NIRA 研究報告書）総合研究開発機構、47–68 頁、【その他】
・「冬のタシュケント」『イスラム世界』第 41 号、109–126 頁、【その他】

1994 年

・『中央アジア・旧ソ連イスラーム諸国の読み方』石田進編、ダイヤモンド社、（担当：「イスラームの過去と現在」59–73 頁）、【共著】
・*Islamic Urban Studies: Historical Review and Perspectives*, M. Haneda & T. Miura (eds.), Kegan Paul International,（担当："Central Asia", pp. 281–328）、【共著】
・「中央アジアの変動とイスラーム復興」『国際問題』411 号、44–55 頁、【論文】
・"The Program of the Turkic Federalist Party in Turkistan (1917)", H. B. Paksoy (ed.), *Central Asia Reader: The Rediscovery of History*, M. E. Sharpe, pp. 117–126,（原文：ウズベク語）、【翻訳・訳注】

1995 年

・「二つの都市のタジク人―中央アジアの民族間関係」原暉之・山内昌之編『スラブの民族』（講座スラブの世界 2）弘文堂、250–274 頁、【論文】
・「1905 年前後の世界―ロシア・ムスリムの視点から」歴史学研究会編『強者の論理：帝国主義の時代』（講座世界史 5）東京大学出版会、117–146 頁、【論文】
・梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社、【辞典・事典項目】
・「トルコの民族と文化」『イスラム世界』第 45 号、61–72 頁、【その他】

1996 年

・『革命の中央アジア―あるジャディードの肖像』（中東イスラム世界 7）東京大学出版会、【単著】
・「試練のなかの中央アジア 5 カ国―交錯するロシアとイスラム世界」百瀬宏編『下位地域協力と転換期国際関係』有信堂、158–175 頁、【論文】
・「中央アジアのイスラーム再生―ペレストロイカからタジキスタン内戦へ」小杉泰編『イスラームに何がおきているか』平凡社、176–196 頁、【論文】
・「トルキスタン人の生成とその行方―フィトラトの軌跡を中心に」『歴史学研究』690 号、93–101 頁、【論文】
・「ジャディードの鏡」『UP』（東京大学出版会）286 号、6–11 頁、【その他】
・「バルトリド」高田時雄編著『東洋学の系譜・欧米篇』大修館書店、115–125 頁、【その他】

1997 年

・「ソ連邦の解体と中央アジア―トルキスタンをめぐって」辛島昇・高山博編『地域のイメージ』（地域の世界史 2）山川出版社、364–405 頁、【論文】
・「R.マーソフ著『粗野な分割の歴史』」（書評：Rakhim Masov, Istoriya topornogo razdeleniya, Dushanbe, 1991）『東洋学報』78 巻 4 号、67–74 頁、【書評】

1998 年

・「危機と応戦のイスラーム世界」『岩波講座世界歴史 21 巻 イスラーム世界とアフリカ』岩波書店、3–78 頁、【論文】
・「三人のジャディード―近代中央アジアの眺望」義江彰夫・山内昌之・本村凌二編『歴史の対位法』東京大学出版会、19–34 頁、【共著】

1999 年

・『中央アジア史』（アジアの歴史と文化 8）間野英二編、同朋舎、（担当：「ロシアと中央アジア」184–197 頁、「現代の中央アジア」209–221 頁）、【共著】
・「新たな船出―タシュケント訪問記」『史学雑誌』108 編 3 号、35–37 頁、【その他】

2000 年

・*Migration in Central Asia: Its History and Current Problems*, coed. with Ch. Obiya & J. S. Schoeberlein, The Japan Center of Area Studies,（担当：“Migration in Central Asia as Reflected in the Jadid Writings”, pp. 21–33）、【共編著】
・『世界民族事典』綾部恒雄監修、弘文堂、【共編著】
・『中央ユーラシア史』（新版世界各国史 4）山川出版社、（担当：「序章」3–14 頁、「中央ユーラシアの周縁化　③西トルキスタン」317–341 頁、「革命と民族　③中央アジア」385–413 頁、「現代の選択　③中央アジア」437–456 頁）、【編著】

2001 年

・*Islam in Politics in Russia and Central Asia (Early Eighteenth Century to Late Twentieth Centuries)*, coed. with S. A. Dudoignon, Kegan Paul International,（担当：“Bukhara and Istanbul: A Consideration about the

Background of the Munāzara", pp.167–180)、【共編著】
・"Üç Cedidci ve Değişen Dünya", Timur Kocaoğlu (ed.), *Türkistan'da Yenilik Hareketleri ve İhtilaller: 1900–1924*, SOTA, Haalem, pp. 299–313,（トルコ語）、【論文】
・西川正雄ほか編『角川世界史辞典』角川書店、【辞典・事典項目】
・「バルトリド」尾形勇ほか編『20 世紀の歴史家（4）世界史編 下』刀水書房、37–53 頁、【その他】
・「イスラーム地域研究の試み―アラビア文字資料のデジタル画像化―マイクロフィルム化の再認識」『月刊ＩＭ』9 月号、10–14 頁、【その他】

2002 年
・『岩波イスラーム辞典』大塚和夫・小杉泰・東長靖・羽田正・山内昌之と共編、岩波書店、【共編著】
・片倉もとこほか編『イスラーム世界事典』明石書店、【辞典・事典項目】
・「中央ユーラシアの再イスラム化」板垣雄三編『「対テロ戦争」とイスラム世界』岩波新書、51–80 頁、【その他】
・「中央アジアのイスラーム復興とアフガニスタン」広瀬崇子・堀本武功編『アフガニスタン：南西アジア情勢を読み解く』明石書店、125–143 頁、【その他】

2003 年
・*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th–20th Centuries): A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000, Part 1*, coed. with S. A. Dudoignon, The Toyo Bunko,（担当："Modern Central Eurasian Studies in Japan: An Overview 1985–2000", Part 1, pp. 127–155)、【共編著】
・「地域間比較の試み―中央アジアと中東」佐藤次高編『イスラーム地域研究の可能性』（イスラーム地域研究叢書 1)、東京大学出版会、49–76 頁、【論文】
・『現代イスラーム思想と政治運動』（イスラーム地域研究叢書 2）小杉泰と共編、東京大学出版会、（担当：「序章 激動の時代」1–36 頁)、【共編著】
・B. ババジャノフ「ソ連解体後の中央アジア―再イスラーム化の波動」小松久男・小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』（イスラーム地域研究叢書 2)、東京大学出版会、167–193 頁、（原文：ロシア語)、【翻訳】
・『中央アジアを知るための 60 章』明石書店、宇山智彦編著、（担当：「中央アジアの多様な世界―文明の重層と複合」20–24 頁、「ロシア・ムスリムの改革と反乱」60–64 頁、「フェルガナ盆地のイスラーム復興」243–247 頁)、【共著、その他】
・「イシャーン―中央アジアの聖者と政治」「ジャポンヤ―イスラーム世界と日本」佐藤次高編『キーワードで読むイスラーム―歴史と現在』（アジア理解講座 2）山川出版社、157–180、181–205 頁、【共著】
・「中央アジアのイスラーム復興―フェルガナ地方を中心に」慶応義塾大学地域研究センター編『21 世紀とイスラーム―その多様性と現代的課題』慶応義塾大学出版会、3–34 頁、【共著】

2004 年
・『現代中央アジア論―変貌する政治・経済の深層』岩﨑一郎・宇山智彦と共編、日本評論社、（担当：「総論 中央アジアの眺望：歴史と地域」1–26 頁)、【共編著】

・“Bukhara and Kazan”, *Acta Asiatica: Bulletin of the Institute of Eastern Culture*, The Toho Gakkai, Vol. 86, pp. 75–90、【論文】
・“The Andijan Uprising Reconsidered”, SATO Tsugitaka (ed.), *Muslim Societies: Historical and Comparative Aspects*, RoutledgeCurzon, pp. 29–61、【論文】
・Coauthored with GOTO Yutaka, “The Ferghana Project: Central Asian Area Studies with GIS”, OKABE Atsuyuki (ed.), *Islamic Area Studies with Geographical Information Systems*, RoutledgeCurzon, pp.103–121、【論文】
・「中央アジアにおけるイスラーム復興」片倉もとこ・梅村坦・清水芳見編『イスラーム世界』岩波書店、72–97 頁、【論文】
・川端香男里ほか監修『新版 ロシアを知る事典』平凡社、【辞典・事典項目】

2005 年

・*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th–20th Centuries): A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000*, Part 2, coed. with S. A. Dudoignon, The Toyo Bunko、【共編著】
・『中央ユーラシアを知る事典』梅村坦・宇山智彦・帯谷知可・堀川徹と共編、平凡社、【共編著】
・フェリペ・フェルナンデス＝アルメスト編『タイムズ・ヨーロッパ民族事典』東洋書林、（担当：第 11 章「ウラルおよびカフカス」の「概説」509 頁、「ヴォルガ・タタール人」510–521 頁、「ヴォルガ・ウラル地方と北カフカスのムスリム・テュルク系諸民族とモンゴル系諸民族」521–529 頁、「ヴォルガ・ウラル地方の非ムスリム民族」529–536 頁）、（原文：英語）、【翻訳】

2006 年

・*Intellectuals in the Modern Islamic World: Transmission, transformation, communication*, coed. with S. A. Dudoignon & Y. Kosugi, Routledge,（担当：“Muslim Intellectuals and Japan: a Pan-Islamist Mediator, Abdurreshid Ibrahim”, pp. 273–288）、【共編著】
・“Khoqand and Istanbul: an Ottoman Document Relating to the Earliest Contacts between the Khan and Sultan”, *Asiatische Studies/Études Asiatiques*, LX (4), pp. 963–986、【論文】

2007 年

・“Dar al-Islam under Russian Rule as Understood by Turkestani Muslim Intellectuals”, UYAMA Tomohiko (ed.), *Empire, Islam, and Politics in Central Eurasia* (Slavic Eurasian Studies No. 14), Slavic Research Center, pp. 3–21、【論文】
・「ロシア革命とイスラーム―中央アジアを中心に」『ユーラシア研究』37 号、15–20 頁、【その他】

2008 年

・「聖戦から自治構想へ―ダール・アル・イスラームとしてのロシア領トルキスタン」『西南アジア研究』No. 69、59–91 頁、【論文】
・「イスラーム復興の潮流とその行方」『東西南北 和光大学総合文化研究所年報 2008』18–26 頁、【その他】
・「中央アジア」小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、261–267 頁、【その他】

2009 年

・『イブラヒム、日本への旅―ロシア・オスマン帝国・日本』刀水書房、【単著】
・後藤寛と共著「中央アジアの動態を読む―GIS による地域研究の試み」水島司・柴山守編『地域研究のための GIS』古今書院、95–112 頁、【論文】
・“From Holy War to Autonomy: Dar al-Islam Imagined by Turkestani Muslim Intellectuals”, *Cahiers d’Asie Centrale*, No. 17/18, pp. 449–475、【論文】
・「中央アジア 2008年夏―ソ連時代の記憶と現代のイスラーム復興」『イスラーム地域研究ジャーナル』1 号、9–13 頁、【その他】

2010 年

・「中央アジアのムハージル」宮治美江子編『中東・北アフリカのディアスポラ』（叢書グローバル・ディアスポラ 3）明石書店、102–125 頁、【論文】
・「中央ユーラシアの変容と波動」小杉泰編『イスラームの歴史 2 イスラームの拡大と変容』（宗教の世界史 12）山川出版社、131–164 頁、【論文】

2011 年

・Мусульманские интеллектуалы и Япония: Панисламистский последник Габдерашит Ибрагим (Ибрагиимов), М. Госманов и Ф. Галимуллин, Габдерәшит Ибраһим: фәнни-биографик җыентык, Казан: «Җыен» нәшрияты, стр. 365–387、【論文】
・V. V. バルトリド『トルキスタン文化史 1–2』（東洋文庫）、平凡社、（監訳、原文：ロシア語）、【翻訳・訳注】
・「近現代史研究の眺望と課題―イスラーム地域を中心に」『内陸アジア史研究』26 号、69–74 頁、【その他】

2012 年

・『＜東＞と＜西＞』（ユーラシア世界 1）塩川伸明・沼野充義・宇山智彦と共編、東京大学出版会、【共編】
・『ディアスポラ論』（ユーラシア世界 2）塩川伸明・沼野充義と共編、東京大学出版会、【共編】
・『記憶とユートピア』（ユーラシア世界 3）塩川伸明・沼野充義と共編、東京大学出版会、（担当：「総論　記憶とユートピア」1–15 頁、「汎イスラーム主義再考―ロシアとイスラーム世界」19–50 頁）、【共編著】
・『公共圏と親密圏』（ユーラシア世界 4）塩川伸明・沼野充義・松井康浩と共編、東京大学出版会、【共編】
・『国家と国際関係』（ユーラシア世界 5）塩川伸明・沼野充義と共編、東京大学出版会、【共編】
・「中央ユーラシア研究の新地平―イスラーム地域研究部門の活動によせて」『文化交流研究 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』25、1–9 頁、【論文】
・“Japonlar Açısından Âlem-i İslâm”, *Türk-Japon İlişkilerinin Dönem Noktasında Abdürreşit İbrahim, Uluslararası Abdürreşit İbrahim ve Türk-Japon İlişkileri Bilgi Şöleni 22-23 Mayıs 2012, Konya Bildiriler*, Konya Japon Kültür Merkezi, pp. 81–95,（トルコ語）、【論文】
・M. デュンダル「私は夢も日本語で見ていた―トルコ・タタール移民の活動」塩川伸明・沼野充義・小松久男編『ディアスポラ論』（ユーラシア世界 2）、東京大学出版会、205–228 頁（原文：トルコ語）、【翻訳】
・「中央アジアの宗教」山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店、288–303 頁、【辞典・事典項目】

・「イスラーム化の進展」帯谷知可ほか編『中央アジア』（朝倉世界地理講座 5）朝倉書店、91–99 頁、【辞典・事典項目】
・「イスラーム復興」帯谷知可ほか編『中央アジア』（朝倉世界地理講座 5）朝倉書店、261–273 頁、【辞典・事典項目】
・「シベリアからアナトリアへ―ある汎イスラーム主義者の復権」『UP』（東京大学出版会）477 号、20–26 頁、【その他】

2013 年

・アブデュルレシト・イブラヒム『ジャポンヤ―イブラヒムの明治日本探訪記』（イスラーム原典叢書）岩波書店、（小松香織と共訳・訳注・解説、原文：オスマン語）、【翻訳・訳注】
・「2012 年の歴史学界―回顧と展望　総説」『史学雑誌』122 編 5 号、1–5 頁、【その他】

2014 年

・『激動の中のイスラーム―中央アジア近現代史』山川出版社、【単著】
・「中央アジア地域研究の試み―ソ連時代の記憶を中心に」『学術の動向』2014 年 8 月号、54–58 頁、【論文】
・「タシュケントのアメリカ人」『れにくさ』第 5-2 号、250–260 頁、【その他】
・「2013 年の歴史学界―回顧と展望　総説」『史学雑誌』123 編 5 号、1–5 頁、【その他】
・「韃靼の志士と乃木将軍」『歴史書通信』216 号、2–5 頁、【その他】

2015 年

・「トイとイスラーム―歴史と現在」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』999 号、2–17 頁、【論文】
・「歴史のなかの中央アジア―ゼンギーアタからの眺望」『国際問題』647 号、6–15 頁、【論文】
・「書評：山内昌之『中東国際関係史研究―トルコ革命とソビエト・ロシア 1918–1923』」『歴史学研究』933 号、71–74 頁、【書評】
・「「韃靼の志士」イブラヒムの夢」上廣倫理財団編『わが師・先人を語る 2』弘文堂、229–266 頁【その他】

2016 年

・『テュルクを知るための 61 章』明石書店、（担当：「はじめに」3–6 頁、44「ロシア革命とテュルク」262–266 頁）、【編著】

2017 年

・*Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, coed. with T. Dadabaev, Palgrave Macmillan,（担当：“Collective Memory, Oral History and Central Eurasian Studies in Japan”, pp. 1–19）、【共編著】
・C.V. フィンドリー『テュルクの歴史―古代から近現代まで』佐々木紳訳、明石書店、（監訳、原文：英語）、【翻訳・訳注】
・「書評：小澤実・長縄宣博編著『北西ユーラシアの歴史空間―前近代ロシアと周辺世界』」『社会経済史学』83 巻 3 号、114–116 頁、【書評】

・「近現代中央アジアにおけるイスラームの展開」『シンポジウム記録　中央アジア地域研究の地平をひらく』東京外国語大学海外事情研究所、3–14 頁、【その他】

2018 年

・『中央ユーラシア史研究入門』荒川正晴・岡洋樹と共編、山川出版社、（担当：「総説」4–16 頁）、【共編著】
・『近代中央アジアの群像―革命の世代の軌跡』（世界史リブレット人　80）山川出版社、【単著】
・『1861年 改革と試練の時代』（歴史の転換期 9）山川出版社、（担当：「総論―改革と試練のなかの 1861 年」2–24 頁）、【編著】
・『ウズベキスタンを知るための 60 章』明石書店、帯谷知可編著（担当：「ロシア革命とジャディード知識人―啓蒙・改革から革命へ」85–89 頁、「ソ連の記憶―現代史を語る史料」117–121 頁、「ウズベキスタンのイスラーム―悠久の伝統と現代」160–164 頁、「宗教と政治―復興するイスラームとどう向き合うか」299–303 頁）、【共著】

2019 年

・『1905 年 革命のうねりと連帯の夢』（歴史の転換期 10）山川出版社、（担当：「総論―革命のうねりと連帯の夢」2–27 頁）、【編著】